



茨城大学 コミットメント

イ バ タ イ
茨城大学の教育の新しいカタチ

2021年
入学の
あなたの本

2021 → 2025

www.ibaraki.ac.jp/commit/

茨城大学での 4年間が見える・わかる 「コミットメントブック」

コミットメント (commitment) とは、「かかわりあうこと」や「約束」という意味をあらわす言葉。「茨城大学コミットメント」は、これからの社会で必要となる5つの茨城大学型基盤学力をすべての学生が身につけて卒業できるように、学生、教職員、地域の人たちがかかわりあう、そのための教育の仕組みです。みなさんが茨城大学を卒業した後の社会ではどんな力が必要となるのか、茨城大学で過ごす4年間でどんなことが待ち受けているのか、それがわかるのがこの「コミットメントブック」です。さあ、今日からあなたも「茨城大学コミットメント」のメンバーです。

4年間で身につける力

茨城大学では、すべての学部の学生が卒業するまでに身につけるべき5つの知識および能力を定めています。これをディプロマ・ポリシー (学位授与の基準) といいます。茨城大学型基盤学力と呼ぶこの5つの力は、これからのグローバル社会で活躍する社会人にとっていずれも必要となるものだと考え、カリキュラムや学修環境を整えています。

Diploma Policy

5つの
茨城大学型基盤学力



世界の俯瞰的理解

[世界を見わたす]

自然環境、国際社会、人間と多様な文化に対する幅広い知識と俯瞰的な理解



専門分野の学力

[道を究める]

専門職業人としての知識・技能及び専門分野における十分な見識



課題解決能力・
コミュニケーション力

[ともに答えを導く]

グローバル化が進む地域や職域において、多様な人々と協働して課題解決していくための思考力・判断力・表現力、及び実践的英語能力を含むコミュニケーション力



社会人としての姿勢

[社会人として生きる]

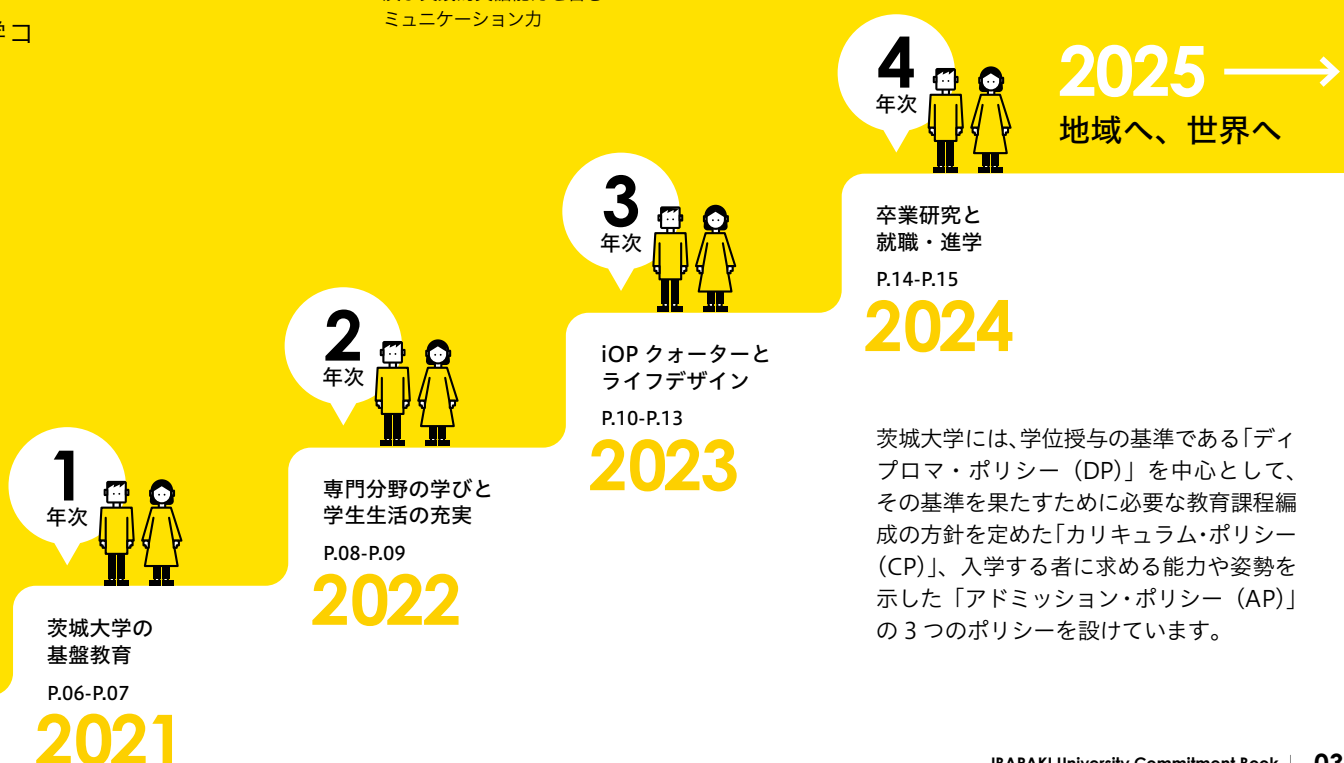
社会の持続的な発展に貢献できる職業人としての意欲と倫理観、主体性



地域活性化志向

[地域と向き合う]

茨城をはじめとする地域の活性化に自ら進んで取り組み、貢献する積極性



「茨城大学コミットメント」とは？

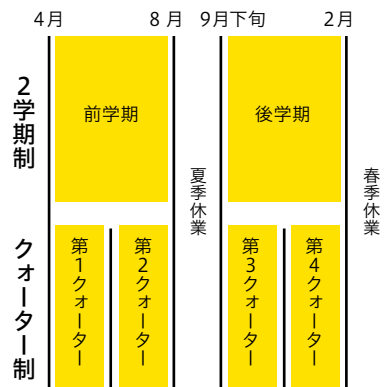
コミットメント・パートナー

「茨城大学コミットメント」は、学生・教職員・地域の人たちという三者のパートナーシップによって成り立ちます。互いに理解しあい、協働しながら、学生の茨城大学型基盤学力を育てていきます。



2学期クォーター制で柔軟な履修計画を

茨城大学では、2学期制と1年間で4つの期間で区切るクォーター制とを合わせた、「2学期クォーター制」を導入しています。じっくり取り組む科目や短期間に集中して学ぶ科目など、授業の性格にあわせて効果的に学ぶことが可能です。また3年次の第3クォーター(iOPクォーター)には原則的に必修科目は開講せず、海外研修やインターンシップなど学外での学修を推奨します。



基盤教育と専門教育のひびきあい

ディプロマ・ポリシーで定めた知識および能力の土台を大学4年間にわたって養う「基盤教育」と、1年次から順次展開される学部ごとの「専門教育」が、相互にひびきあって茨城大学型基盤学力が形成されます。



茨城大学では、学生・教職員・地域のそれぞれの代表者による意見交換の場を適宜設け、「茨城大学コミットメント」の機能を継続的に発展させていきます。教職員と学生とは、パートナーシップによって、より良い学修環境をともにつくっていきます。



1

学生×教職員のコミットメント



茨城大学の教職員は、すべての学生が充実したキャンパスライフを送り、5つの茨城大学型基盤学力を身につけられるよう、授業や日常の業務、環境整備をおこないます。履修要項やWEB上のシラバスには、各授業でめざすことが教員から示されています。それぞれの専門分野を活かし、目標をしっかりと果たすことが教員のコミットメントです。一方、授業がすべて終わったあとは、学生のみなさんに授業アンケートに答えてもらいます。教員のコミットメントが果たされているかどうか、学生の側がしっかりとチェックし、よりよい授業づくりに参加していくこと、それは学生のコミットメントです。また、茨城大学の多くの授業では、一方的に講義を聞くスタイルではなく、ディスカッションや演習を通して学生も積極的に学びに参加するアクティブ・ラーニングを取り入れています。これも学生と教職員とのパートナーシップで成り立つものであり、双方のコミットメントが求められます。



2

学生×地域のコミットメント

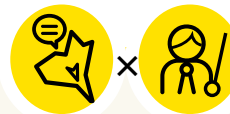


茨城大学は地域の知の拠点であることをめざしており、学生たちの活躍は地域社会からも期待されています。大学をあげて地域の知の拠点事業を展開し、1年次の必修科目「茨城学」や地域志向教育プログラム、地域協創人材教育プログラムなど、県内の企業や自治体の関係者の協力のもと、講義や地域活動のプログラムをたくさん展開しています。また、地域PBL科目や学生地域参画プロジェクトなどとおして学生の地域活動をサポートします。



3

地域×教職員のコミットメント



茨城大学では、多くのパートナー企業との連携を進めているほか、アドバイザーボードとおして教育活動への評価や助言をいただきながら、社会の要請に応える人材の育成を具体的に進めています。また、いばらき地域づくり大学・高専コンソーシアムを介した地域社会との連携や、社会人と学生がともに学ぶリカレント教育プログラムの充実を進めています。



茨城大学
コミットメント
Ibaraki University
Commitment

1 年次



茨城大学での生活がスタート。 学び方を学び、新たな世界の入り口へ。

茨城大学へようこそ。1年次は大部分の学生が水戸キャンパスで過ごし、大学での学修・研究のスタイルや、地域をとりまくさまざまな課題、幅広い教養やそれぞれの専門分野のベースとなる知識を学びます。高校での勉強との違いがすぐに実感できるはず。多様な分野の授業が開講されているリベラルアーツ科目では、専門分野に留まらない広い知見を得ることができます。シラバスと時間割を眺めながら広大な知の旅へ、さあ出発！

01 学び方を学ぶ 「大学入門ゼミ」

大学での学修は、高校までとは異なる点がたくさんあります。「大学入門ゼミ」では、アクティブ・ラーニングや資料検索の方法、レポート作成のポイントなど、大学での学び方を身につけます。



02 地域から世界が見えてくる 「茨城学」

第2～第3クォーターに開講される授業科目「茨城学」では、具体的な地域の課題に触れ、ディスカッションを通して理解を深めます。クォーター間の夏休み中に地域活動に参加すれば、より充実した学びにつながります。



03 幅広い教養 「リベラルアーツ科目」

異文化コミュニケーション、ヒューマニティーズ、パフォーマンス&アート、自然・環境と人間、グローバル化と人間社会といった分野から、興味のある科目、必要な科目を選んで学びます。多様な知に触れてください。



04 実践的な外国語学習 「プラクティカル・イングリッシュ」

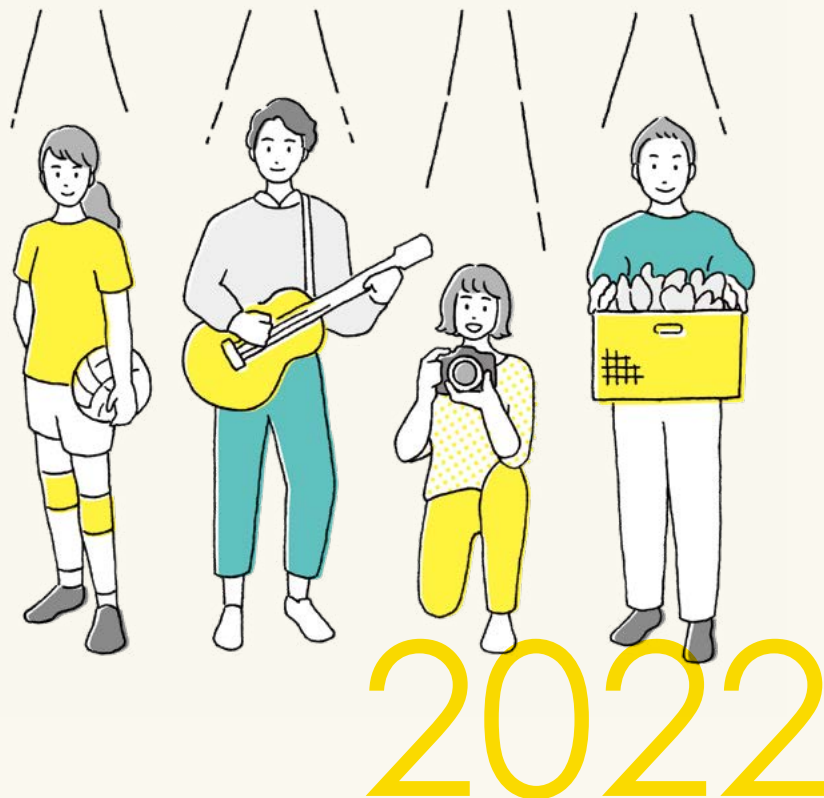
アクティブ・ラーニング形式で実践的な英語を学びます。授業以外にも学習・相談のプログラムを用意していますので活用してください。1年次と3年次には全員がTOEICを受検し、習得度を測ります。



2 年次



茨城大学
コミットメント
Ibaraki University
Commitment



それぞれの道で、 知識と生活を充実させる。

2年次になると、水戸、日立、阿見というそれぞれのキャンパスに分かれ、学部ごとの専門分野の教育が本格化します。しかし、茨城大学の教育の場は授業だけではありません。サークル活動や大学の行事で仲間と力を合わせることも、茨城大学型基盤学力につながる大切な経験になります。それらの活動を充実できるよう教職員が全力でサポートします。

01 専門分野の学びを本格化

人文社会科学部・教育学部・理学部は水戸、工学部は日立、農学部は阿見と、専門分野ごとにキャンパスが変わり、専門分野の学修に本格的に取り組むことになります。それぞれの分野の深い世界へ足を踏み入れることで、専門職業人としての将来の自分の姿をよりイメージできるようになるとともに、他の分野を含む幅広い視野や見識が役立つことにも気づくはずですよ。基盤教育と専門教育のひびきあいを味わいながら、自分の成長につなげてください。



02



学生生活のサポート

キャンパスライフにも馴れてくる時期ですが、一方でさまざまな要因から心身のバランスを崩す人も少なくありません。また、アルバイトをする学生も増えますが、最近は労働環境や条件でトラブルを抱える「ブラックバイト」の事例も報告されています。茨城大学では、心や身体の不調、経済上の不安など幅広い相談に応える学生支援センターを設けています。ひとりで悩まず、気軽に相談してください。みなさんが自分のペースをつかみ、学生生活を充実できるようサポートします。

03

大学運営への参加— 自分たちの居場所を自分たちで改善

茨城大学においては、学生と教職員がコミットメント・パートナーという対等な関係にあります。したがって、大学の運営においても、学生のみなさんの参加を求める機会を多く設けています。学長と直接意見交換を行う学長懇談会や広報活動など、さまざまなチャンネルでの活動を予定していますので、ぜひ積極的に参加してください。自分の居場所を自分たちで改善できる、というのも大学ならではのおもしろさです。



3 年次



茨城大学
コミットメント
Ibaraki University
Commitment



2023

学びと成長の現場は、 キャンパスの中にも、外にも。

3年次の夏休み明けの第3クォーターは「iOPクォーター」と呼ぶ特別な期間になり、インターンシップ、海外研修、ボランティアといったキャンパス外での学びが推奨されます。また、3年次にはライフデザインという必修科目を開講。学部の専門教育も、演習や実験など卒業研究を見据えた活動が多くなります。キャンパスの外と中を出入りしながら、自分のチカラを一気に高めていきましょう。

01

iOP クォーター

茨城大学の授業科目は、それらを履修することで5つの茨城大学型基盤学力が身につくように構成されていますが、この力を相互につなぎ、輝かせて、社会を生きる力としてより活かしていくためには、ある程度まとまった自由な時間の中で主体的で活動的な学修ができるような仕組みが必要だと考えています。

そこで茨城大学では、3年次の第3クォーターを「iOP (internship Off-campus Program) クォーター」と名づけ、原則的に必修科目を開講せず、主体的な学びを促す期間として全学的に定めました。

→くわしくはP.12~13をチェック



授業の履修を通じて身につけていく5つの基盤学力が、iOPクォーターの主に授業外における主体的な学修活動によって、学生の中でつながり、ブラッシュアップされることを期待しています。

※工学部では6年一貫教育の5年目(大学院博士前期課程1年次)の第3クォーターにiOPと同等の学外実習OFF-CLASS-PROJECTが設けられています。

02

ライフデザイン

3年次には、「ライフデザイン」という必修の基盤教育科目が開講されます。就職活動も念頭に置きながら、大学時代に身につけておくべき多様な文化や価値観、社会の常識、知識、マナーなどを学ぶとともに、自らの将来について思いをめぐらし、地域はもちろん、海外で働く可能性も含めて、今後の主体的な生き方を設計する時間です。授業では、さまざまな分野で活躍する魅力的な社会人たちにも出会えるはず。コミュニケーションを通じて、自分のキャリアイメージを育てていきましょう。



「iOP」クォーターを活かすための入学から卒業までの STEP



1
年次

STEP1 情報を集める・イメージを広げる

1～2年次は、iOPで活動したいこと・学びたいことと一緒に取り組む仲間と出会う期間。iOPに関するガイダンスや、先輩たちによる成果発表イベントに参加しながら情報を得て、自分ならではのiOPの活用アイデアを見つけましょう。水戸キャンパスの共通教育棟には、iOPについてのさまざまな情報が手に入る「iOP情報室」を開設しています。また、iOPの活動を先取りして体験・実験できる「iOPラボ」(<https://www.ibaraki.ac.jp/commit/ioplab/>)にもぜひ積極的に参加してみてください。



iOP 情報室 (水戸キャンパス)



iOP ラボ

2
年次

STEP2 iOP エントリー

自分がやりたいiOPの活動を登録します。ひとりで複数の活動を登録することもでき、またグループでの活動もOKです。海外研修やインターンシップ、地域活動、発展学修・チュートリアルなどの活動リストからの選択に加え、リストにない活動を自ら企画してエントリーすることも可能です(審査あり)。

3
年次

STEP3 iOP 本番!

3年次第3クォーターの「iOPクォーター」やその前の夏季休業期間を利用して、あなただけの充実したiOP活動に取り組みましょう。学びは現場で起きています!

STEP4 報告書を提出& iOP-AWARD

iOPの活動が終了したら報告書を提出します。有意義な活動には認定証も発行されます。また、特に優れたiOP活動を表彰する「iOP-AWARD」という取り組みも。ぜひ応募して、みなさんの活動を先輩たちにも紹介してください!



iOP-AWARD

4
年次

STEP5 卒業研究やキャリアに生かす

みなさんが主体的に取り組んだiOPの活動は、4年間の集大成である卒業研究の内容をより魅力的なものにしてくれるはず。また、就職活動や進学でも積極的に生かしてください。



海外研修

海外の協定校等の大学や語学教育機関などで学び、語学力などの知識・技能や多様な文化を理解する視野を身につけます。大学による経済的サポート制度も。



インターンシップ

企業や自治体、省庁、学校、NPOなどで行う「就業体験」。短期的なものや中長期的なものまでタイプはさまざま。実際の仕事の現場で学びましょう。



サービラーニング

地域でのボランティア活動などを通じて授業で身につけた知識・技能を課題解決に活かしましょう。地域の宝にたくさん出会ってください!



発展学修

まとまった時間を活用して、実験やフィールド研究を行ったり、コンテストに出場したりして知識を深めます。所属学部以外の教員からも指導を受けられるチュートリアルも。



茨城大学型基盤学力 + iOP

“総合的人間力”を携えて、地域へ、社会へ!

卒業

そのほかにも自分で企画して展開する活動もOK!1年生のうちから、先輩たちの活動なども参考にさまざまな学びのイメージを広げておきましょう!

4年次



大学生活の集大成。 自分を信じて次の一步へ挑む。

2024から2025年。社会はどのように変わっているのでしょうか。4年次は大学生活の集大成。ゼミや研究室の仲間と一しょに取り組む卒業研究は、人生において大きな宝物になります。これまで学んだことを信じ、世界にひとつだけの研究を成功させ、社会へ羽ばたく最後の準備をしましょう。

01 卒業研究—大学生生活のマスターピース

3年次あるいは4年次からゼミや研究室に所属し、教員や同級生と一緒に研究に取り組むことになります。

学術研究とは、文献を読み解いたり、観測や実験を積み重ねたりしながら、まだ誰も明らかにしていないことを、世の中に示すことです。それはときに孤独で辛い作業でもあります。未知のものに挑戦する大きな仕事です。仲間と手をとりあいながら、ひとつの論文やプロジェクトを完成させること。そうして作り上げた大学生生活のマスターピースは、人生にとっても宝物になるはずです。



02 就職活動—ライフデザインの到達点でありスタート地点



多くの学生たちが就職活動に取り組むこととなります。今後は、AI（人工知能）が今よりも大きく発達するとともに、グローバルな規模での経済活動や移動がますます進むと考えられます。今ある多くの職業が、形を大きく変えたり、あるいは消えてしまったりすることも予想されます。

大学での幅広い学びをとおしてこれからの社会を予測し、自分がどう生きるかを考えるのがライフデザインです。就職はその到達点であり、一方で社会人としての生活のスタート地点でもあります。みなさんの卒業後の人生において、5つの茨城大学型基盤学力は、いずれも大切で不可欠になっていることでしょう。

03 大学院進学という道

大学の卒業後には、大学院進学というキャリア選択もあります。茨城大学には大学院の4つの研究科があり、さらに深く学ぶことができます。

人文社会科学研究科

教育学研究科

理工学研究科

農学研究科



人文社会科学部の コミットメント



人文社会科学部で身につけるチカラ

- 世界の俯瞰的理解
 - 多様な文化とその価値への深い認識と、自然環境や国際社会に対する幅広い知識・俯瞰的な理解
 - 地域がグローバルな動きとつながっているという認識
- 専門分野の学力
 - 人文科学・社会科学の学問的な方法、ものの見方・考え方
 - 学問分野に応じた専門的な調査・分析・企画力
- 課題解決能力・コミュニケーション力
 - 情報を主体的に収集・分析・活用し、文章でも口頭でも的確に説明する力
 - 文化、社会、人間を多角的に捉えて考察できる力
 - 目標に向かって多様な人々と積極的にコミュニケーションをはかる能力
- 社会人としての姿勢
 - 職業人や市民としての社会的責任と役割に関する自覚を持ち、生涯にわたり自ら学び続ける積極性
- 地域活性化志向
 - 職業人や市民として地域の課題を見だし、地域の持続的発展に主体的に携わる意欲と能力

現代社会学科

メディア文化メジャー
国際・地域共創メジャー

法律経済学科

法学メジャー
経済学・経営学メジャー

人間文化学科

文芸・思想メジャー
歴史・考古学メジャー
心理・人間科学メジャー



サブメジャー・プログラム

地域志向教育(学部) / 行政マネジメント研究 / グローバル英語(全学共通) /
日本語教育(全学共通) / メディア文化 / 国際・地域共創 / 法学 / 経済学・経営学 /
文芸・思想 / 歴史・考古学 / 心理・人間科学

全員がメジャー(主専攻)とともにサブメジャー(副専攻)のプログラムを1つ選択し、
幅広い視野や実践力を身につけます。

教育学部の コミットメント



理学部の コミットメント



教育学部で身につけるチカラ

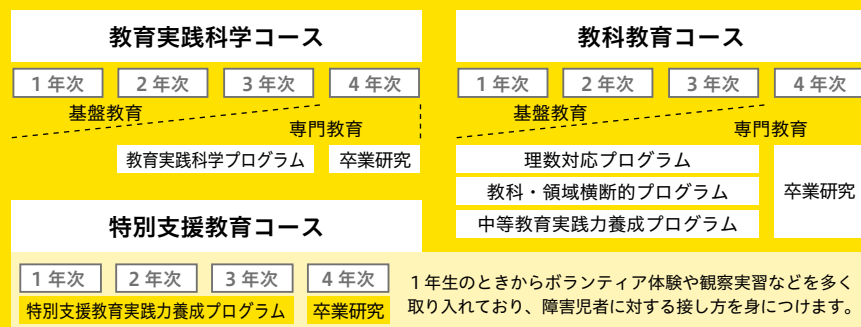
5つの茨城大学型基盤教育に加えて、実践的指導力のある教員に必要な以下の知識・能力を身につけます。

- 教員としての姿勢と基本的知識**
 - 教員としての倫理・使命観及び教員の権利と義務に関する基礎的知識
- 学校教育に関する基本的知識**
 - 学校教育の理念、制度、運営に関する基礎的な知識
- 子どもの心理に関する基本的知識・技能**
 - 子どもの内面や多様性に配慮しながら成長・発達を促すための基礎的な知識
- 学習指導・生徒指導に関する基本的知識・技能**
 - 初等中等教育の各学校における各教科、領域、専門分野に関する基礎的な知識・技能
- 教員としての協働性**
 - 同僚教員や保護者、地域社会の人々と連携、協働する力

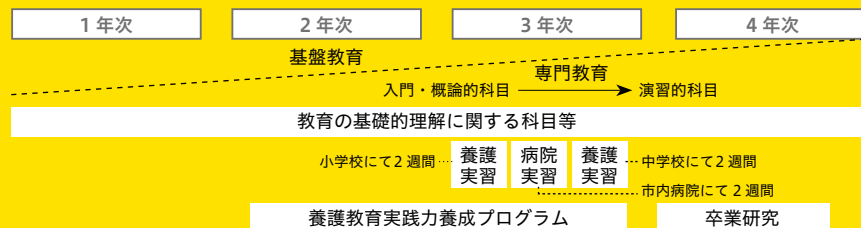
理学部で身につけるチカラ

- 世界の俯瞰的理解**
 - 未知なる自然への深い関心と探求心に加え、人類の多様な文化や思想、歴史を理解しうる国際感覚
- 専門分野の学力**
 - 国際的に通用する理学の知識と、実践に基づく論理的な思考力
- 課題解決能力・コミュニケーション力**
 - 自ら新しい課題を見つけて解決する能力(思考力・判断力・表現力)
 - 多様な人々との協働を可能にするコミュニケーション力と英語能力
- 社会人としての姿勢**
 - 社会の持続的な発展に貢献しようとする意欲と主体性、職業人としての倫理観
- 地域活性化志向**
 - 世界有数の研究機関や先端産業が集積し、一方で自然豊かな茨城県の特徴を生かした学修に基づく、社会と科学の発展に貢献する「理学スペシャリスト」としての柔軟かつ創造的な思考力

学校教育教員養成課程



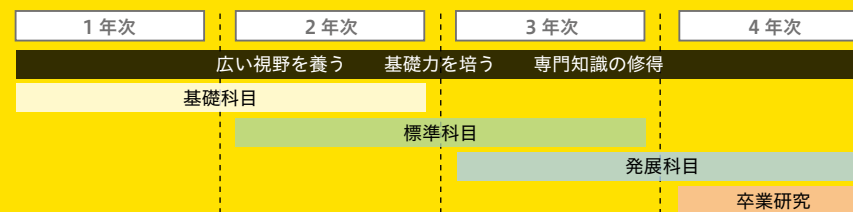
養護教諭養成課程



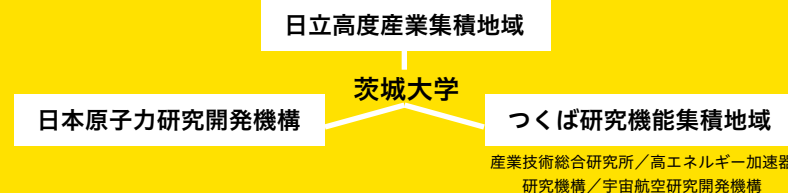
理学科

数学・情報数理コース/物理学コース/化学コース/
生物科学コース/地球環境科学コース/学際理学コース

1学科体制で理学部全教員が6コースの教育に責任を持ちます。



さまざまな研究機関等との連携教育



工学部の コミットメント



農学部の コミットメント

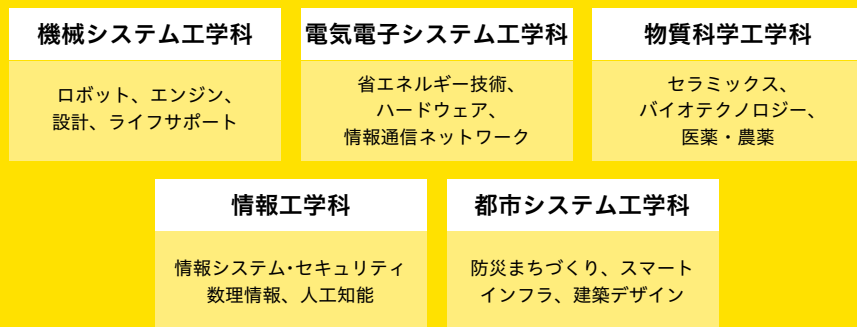


工学部で身につけるチカラ

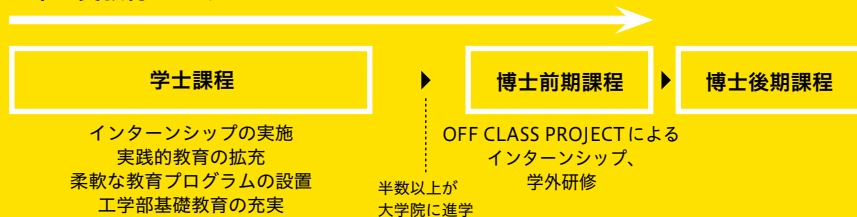
- 世界の俯瞰的理解 ● 工学系専門技術者に必要な自然環境、国際社会、人間と多様な文化に対する幅広い知識と俯瞰的な理解
- 専門分野の学力 ● 工学系専門技術者としての知識・技能及び専門分野における十分な見識
- 課題解決能力・コミュニケーション力 ● グローバル化が進む地域や職域において、多様な人々と協働して課題解決していくための工学系専門技術者としての思考力・判断力・表現力、及び実践的英語能力を含むコミュニケーション力
- 社会人としての姿勢 ● 社会の持続的な発展に貢献できる工学系専門技術者としての意欲と倫理観、主体性
- 地域活性化志向 ● 茨城をはじめとする地域の活性化に自ら進んで取り組み、貢献する工学系専門技術者としての積極性

農学部で身につけるチカラ

- 世界の俯瞰的理解 ● 多様な文化と価値観をとおしたグローバル社会における農業・食料問題の包括的な理解
- 専門分野の学力 ● 総合科学としての農学分野の専門知識と技術
- 課題解決能力・コミュニケーション力 ● 「生命を支える食料と食品」の課題を科学的視点から多面的に検討し、他者と協調しながら解決する能力
- 社会人としての姿勢 ● 農学系専門職業人として、生涯に渡り主体的に学び続け、自然との共生社会の実現に貢献する意欲
- 地域活性化志向 ● 獲得した専門性を活かし、地域社会の持続的な発展に寄与する意欲



6年一貫教育カリキュラム



これらのキーワードから生まれてくる、学生の「これがしたい!」という気持ちを、1～2年次前半で学ぶ「農学入門」や「学科共通科目」で育み、さらに2年次後半から3年次に学ぶ「コース専門科目」で「こうなりたい!」に変え、学部全体のキーワードである「生産」「研究開発」「流通」のプロとして、社会で活躍できるようにします。

「ディプロマ・ポリシー」の達成度は？ セルフチェック表

- 自然環境に対する幅広い知識
- 国際社会に対する幅広い知識
- 人間と多様な文化に対する幅広い知識
- 世界を俯瞰的にとらえるための視点、視野および素養
- 専門職業人としての知識・技能
- 専門分野における十分な見識
- 課題解決のための思考力
- 課題解決のための判断力
- 課題解決のための表現力
- グローバル化が進む地域や職域において多様な人々との協働を可能にするコミュニケーション力
- グローバル化が進む地域や職種において多様な人々との協働を可能にする実践的英語能力
- 社会の持続的な発展に貢献できる職業人としての意欲
- 社会の持続的な発展に貢献できる職業人としての倫理観
- 社会の持続的な発展に貢献できる職業人としての主体性
- 茨城をはじめとする地域の活性化に自ら進んで取り組み、貢献する積極性

ご相談はこちら

茨城大学のすべての教職員は、
学生のみなさんの学生生活の安全・充実にコミットします。

〈連絡先などは「いばだいガイドブック」をご参照ください〉

いばだいガイドブック <https://www.ibaraki.ac.jp/student/guidebook/>

全学教育 機構 →

共通教育センター

1年次からの基盤教育及び全学共通プログラムの履修手続きなど、共通教育全般に関する窓口となります。また、証明書や学割の発行、休学の手続きなども取り扱います。

キャリアセンター

将来を見据えて、インターンシップや就職支援など、幅広いキャリア支援を行います。就職相談や求人情報、インターンシップの受付などの窓口です。

グローバル教育センター

海外留学や研修、英語コミュニケーション力の強化など、グローバル教育を推進します。留学や国際交流の相談のほか、外国人留学生の日本語教育や修学支援、国際交流会館などの窓口もこちらです。

学生支援センター

学生生活全般について取り扱い、学生の成長を促す学生支援を行います。奨学金や授業料免除の申請、学生寮、サークル活動などの窓口となります。

○茨大なんでも相談室

インターカー兼カウンセラーが心身の健康や修学・学生生活上の不安、悩みなどの相談を受け付けます。相談内容によっては、より適切な相談員を紹介します。

○バリアフリー推進室

障害のある学生への支援を専門的に担当します。学生生活および修学支援の相談を受け付けていますので、お気軽にお尋ねください。

全学教職センター →

教員免許状取得のための学修や教育実習、また、教員採用試験対策などについて指導・助言を行います。ボランティアをはじめとする学校現場体験機会の提供など、教職に関するさまざまな支援も行います。相談窓口は共通教育センターです。

保健管理センター →

健康・保健相談、精神保健・心理相談や応急処置を専門の医師や看護師、カウンセラーが行います。また、学生教育研究災害傷害保険の窓口もこちらです。



2025

さあ。
地域へ、世界へ。

最新の情報はホームページ・ツイッターで。
質問・コメントもどうぞ！

URL

www.ibaraki.ac.jp/commit/



@IBADAI_commit



茨城大学
Ibaraki University

茨城大学

〒310-8512 茨城県水戸市文京 2-1-1

TEL 029-228-8111 (代表)